

便利に使えるパソコンソフト

千 歳 壽 一

お茶の水地理学会の会誌編集者さんから、随筆の依頼を受けましたが、初めてのことなので大へん戸惑っています。

これまでに、役所の調査報告書の類はいやというほど書かされました。学術論文も、少しですが書きました。その他の一般論文、いわゆる雑文もいくつかあります。しかし随筆というのは書いたことがありません。役所に長年努めていれば、おもしろおかしい体験の二つや三つはあります。しかし、いやしくも学会誌、しかも才女、淑女の誉れ高いお茶の水女子大卒業生の学会の会誌です。品位を落とすような話題は出せません。文化的な話として、音楽を論じようとしても、多少音楽が好きなくらいでは、とても人さまに読んでいただくような文章は書けません。となると、落ち着き先は、ふだんの講義や研究の周辺の紹介ということになりそうです。

ただいま、一般教育科目の情報を受け持っています。コンピュータを中心とした情報処理について、身近な問題から社会におけるいろいろな情報システムまで、いわば高度情報社会人の常識として話しています。最近はどここの研究室にも、パソコンの一台や二台はおいてあり、それを使って、データの分析やワープロによる作文を行っています。比較的簡単におぼえられるBASIC言語を使って、集計や回帰分析などが行われます。またパソコン用に様々なソフトが開発されて店頭に出回っており、それを買ってきて使えば、かなり難しい統計分析でも地図打ち出しでも、わりに簡単にできます。

ここまでは、どこの本にも書いてありますし、大概の人が知っています。ところが、意外に使われてないのが、簡易言語と呼ばれるソフトです。プログラムの書き方を全然知らない人が、簡単な

使い方を教わるだけで、縦横の表計算ならなんでもできる便利なソフトです。縦合計、横合計はいうに及ばず、伸び率、パーセンテージ、お手のものです。紙に表を書くのと同じ手間で、パソコンに表を書き込むと、後は計算が簡単にできるので、大へんな時間の節約になります。

ここから先は本当にあまり知られていません。基礎的な統計、すなわち平均や標準偏差を計算することができるのです。そんなこと、気のきいた電卓だってできる、という声が聞こえそうです。確かにそのとおりです。しかし、もう少し進んだ相関係数の計算は電卓では無理なようです。それが簡易言語ならできるのです。とはいえ高い次元の回帰式は、理論的には可能かもしれませんが、人間の生理的に不可能に近いと思います。せいぜい2元1次がいいところです。それでも、いつも頻繁に使う1元1次の回帰式が、作表プラス多少の時間でできるのは、ひじょうに便利です。

その程度の計算だけでは、大した分析ができない、まあ素人相手ならそれでもいいけどと、軽蔑の目で見られるかもしれません。ところが、たかがパソコン、簡易ソフトと、侮るわけにはいきません。パソコンの機種によっては、簡易言語でつくった表が、即BASICを使って組んだ複雑な計算プログラムで使えるのです。それどころか、多変量解析でもなんでも、高度な分析用プログラムでも使えるのですから嬉しくなります。もちろん、分布地図を書かせることもできます。

宣伝ばかりしているうちに、なんという名前の簡易言語で、どう使ったらいいか、肝心の点を書くスペースがなくなっていました。やはり、随筆というのは、難しいものです。パソコンで使える随筆用データベースの開発が必要ですね。